

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：12602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350319

研究課題名(和文) コンピュータシミュレーションを活用した歯科衛生士キャリアパスの構築

研究課題名(英文) Building dental hygienist career paths utilizing computer simulations

研究代表者

足達 淑子 (Adachi, Toshiko)

東京医科歯科大学・歯学部附属病院・歯科衛生保健部長

研究者番号：90420265

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：歯科衛生士のキャリアに関する指向を把握するために、アンケート調査を実施し、303件の回答を得た(回収率46.3%)。自身のキャリアに関して、学歴の取得を望む者より、臨床技能の向上を目指す者が多かった。キャリアアップの為の学びの機会について「ある」69%、「ない」が23%であった。学ぶ機会がない理由として、「都市圏の研修が多く受講しにくい」「研修を受けるための費用」との意見が認められた。e-learningに関する認知度は25%と低かったが、全体の約4割が活用してみたいとの回答を得た。歯科衛生士のキャリア支援のためには、e-learningシステムの活用が有用であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：In order to grasp the career trends of dental hygienists we conducted a questionnaire survey and obtained 303 responses (response rate 46.3%). According to the survey results, with respect to their careers, more dental hygienists aim to improve their clinical skills rather than to acquire academic backgrounds. Regarding learning opportunities for their career enhancement, 69% of respondents answered positively for such chances and 23% answered negatively. The reasons given for not being able to further their learning were that educational opportunities were only available in urban areas and the high cost of courses available. The rate of e-learning awareness was as low as 25%, though 40% of the total respondents answered they would like to try using it. Regarding career enhancement support for dental hygienists, utilization of e-learning systems is considered to be a useful method.

研究分野：予防歯科学

キーワード：歯科衛生士 キャリアパス e-learning

1. 研究開始当初の背景

歯科衛生士教育は、従来の専門学校での2年制教育から3年制の教育に移行し(平成22年度までに移行終了)、4年制大学での教育が開始(平成16年より)されている。また近年では、大学院での研究の場も有するようになってきている。一方臨床では、口腔ケアの重要性が認められ、歯科衛生士の活動の場が従来の歯科診療所や病院だけでなく、医科の病棟や介護施設など、多種多様に広がりつつある。このように歯科衛生士の教育や活動は大きく変化を遂げているが、歯科衛生士のキャリアパスは存在していない。歯科口腔保健法が成立し、知識と技術の統合による高い実践能力を備えた、歯科衛生士が必要とされるなか、歯科衛生士の育成と臨床実践能力の向上のためのキャリアパスの開発は重要課題であると考へ本研究を開始した。

2. 研究の目的

歯科医療の専門職として従事する歯科衛生士の教育は高度化され、従来の専門学校での教育から4年制大学での教育が開始され、近年では大学院での研究の場も有するようになってきている。しかしながら、歯科衛生士のキャリアパスは、明確化していないのが現状である。歯科における専門職種として、キャリアパスの開発は重要課題である。本研究において、知識と技術の統合による高い実践能力を備えた、歯科衛生士の育成と臨床実践能力の向上を目指していけるためのキャリアパス開発のための基礎を構築すること。また、その教育方法の一つとして e-learning の有効性を検討することを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

キャリアパス開発にあたっては、臨床の場にいる歯科衛生士のキャリア志向を把握することが必要と考へ、郵送によるアンケート調査を実施した。

4. 研究成果

平成25年度は、歯科衛生士職員やまた養成に係わる方より、歯科衛生士のキャリアに関する意識・ニーズについて聞き取り調査を行いアンケートの作成を行った。聞き取り調査の対象としては、国公立および私立の歯学部を有する大学病院の主任、歯科衛生士養成校の教員、東京医科歯科大学歯科衛生保健部職員とした。聞き取り調査にて「キャリアに対する考へ」「キャリア支援のためのニーズ」「キャリアアップのための教育」「キャリアアップに関する障害となる事項」に関して情報を得ることができた。そのため、予定したアンケート調査は当初より時期を変更し、具体的なキャリアパスへの教育方法、シミュレーション教材作成の方向性や e-learning 活用について検討することを目的として対象人数を拡大して実施することとし、アンケー

トの作成を行った。アンケートの評価には一部質的分析を用いることとし、その準備を行った。

また、キャリアステージ設定のための調査として、全国歯科大学附属病院歯科衛生士協議会キャリアラダー委員会において「大学病院に勤務する歯科衛生士のキャリアラダー」に関する基本的な考え方の報告を行ったため、このキャリアラダーを基に「歯科衛生士技術に係わるもの」「歯科衛生士の資質に係わるもの」に分けて整理して、キャリアステージについて検討、ステップの設定を行った。キャリアラダーの設定には、新人職員として、入職後1年以内に身に付けるべきこと。また、指導者として、指導し得ていくためには全段階をマスターしていることが必要であることから、カテゴリー別に教育をのステージを示すことが必要となることが明確となった。

一方、実際に勤務する歯科衛生士のキャリア教育に関するニーズについては、東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科衛生保健部職員を対象に実施した、「卒後教育に関する調査」においてニーズの把握を行った。この調査を基に臨床現場で働く歯科衛生士がキャリアアップのために求める技能・教育・研修が把握できたため、この中からコンピューターシミュレーション教材の作成対応できるテーマを抽出した。この中からシミュレーション教材の作成を開始した。

アンケート調査は、H26.10より郵送形式にて実施をし、アンケート655件発送したうち、303件、回収率46.3%であった。

対象者は、歯学部を有する大学病院に勤務する歯科衛生士とした。

回答者は21～29歳117名、30～39歳82名、40～49歳60名、50～59歳41名、60歳以上2名、未記入1名であった。回答には卒直後の21歳から61歳までの幅広い年齢層からの回答を得ることができた。

現在の勤務体制についての満足度は、満足している64%、満足していない33%、どちらともいえない・未回答は7%であった。満足していない理由としては、業務内容に関するものが最も多く、次いで個人の能力に関すること歯科衛生士の資格に関するものが上がっている。雇用条件に関するものは少なかったが、労働環境として「院内講習がない」「講習会で得た知識を生かす場がない」ことがあげられている。

歯科衛生士として「何がしたいですか」の設問については、患者とのかかわりに関することが多くを占め、次いで歯科衛生士の臨床技能に関するものが多く認められた。研究活動、論文作成と回答としたものは5名であった。

キャリアアップに関して、学歴(修士・博士)の取得を望むものは少なく、修士取得希望16名、博士取得希望12名であった。この設問においても臨床技能の向上を目指すものが多く、その中には学会の制定する認定取

得を目標とする者がすでに取得したものも含めて169名と多かった。また、キャリアアップのために行っていることとして、学会への参加や学会発表があげられている。

歯科衛生士としての学びの機会について「学ぶ機会がある」と答えたものが69%、「学ぶ機会がない」と回答したものが23%いた。セミナーなど学ぶ機会においては、職場内での研修会が135名大学病院と言う職場環境から学びやすい環境にあるものが多かった。自らスタディグループを作り学んでいるものも29名だった。

「学ぶ機会がない」と回答した理由は、時間がない38%、金銭的理由28%、学びたい研修内容がない30%、研修の情報が得られない23%であった。また、自由回答では都市圏の研修が多く受講の機会が得られにくい、研修を受けるための費用が多くかかるとの意見が認められた。学びたい内容に関しては、「学ぶ機会があるもの」「学ぶ機会がないもの」いずれも、障害者歯科に関わる全身疾患に関するものが多く、現代の社会的背景を色濃く示している。

e-learningに関する質問では、e-learningの認知度が25%と低かったにもかかわらず、約3分の1の者が試してみたいと回答している。学びたい内容が全身疾患の知識に関するものが多く上げられている。これらは、座学で学べる内容のため、映像を付加できるe-learning教材は、視覚的にも知識を得ることができるため、適していると思われる。主に使用する器材としてパソコン216名、タブレット51名、スマートフォン223名(複数回答)であった。主に使用する器材にスマートフォンをあげているものが多かった。利用者の利便性を考えると、スマートフォンやタブレット等での使用が可能となるシステムにすることにより利用者の幅が広がることが示唆された。また、コンピュータなどの機械に苦手意識を有する者も少なくないことから、視覚情報を多く含んだゲーム感覚で学習できるe-learning教材開発が有効であると思われる。

理想とする歯科衛生士像では、「患者や歯科医師からの信頼がある」「あらゆる症例に対応できる」「知識がある」などのキーワードがあげられている。回答者の多くが前向き思考の回答が多く、明確なキャリア指針や学習の機会を多く作ることで、歯科衛生士の質の向上が図れると思われる。

これらの結果から歯科衛生士のキャリア支援に対して地域性も考慮すると、e-learningシステムは有用に活用できると考えられる。

歯科衛生士教育の現場では、男子学生も増えてきているが、未だ女性が多い職業である。女性にはライフイベントとして、出産や育児など職場を離れなければならないことがある。「職場復帰の支援プログラム」が未だ少ないため、このようなライフイベントを経験

した後に就業に至らない歯科衛生士も多にいる。キャリア支援の中には「職場復帰の支援プログラム」の構築も歯科衛生士の重要な課題となっている。近年、歯科衛生士の需要が増えている。歯科衛生士資格取得者は増加しているが必要としている場に、歯科衛生士が勤務できていない状況もあり、歯科衛生士不足の声も聞かれる。時間を選ばず、自宅や職場にいながら、自由に学びたい教材を取得して学習できるe-learningシステムは、これらの問題に大きく寄与できる学習媒体であり、キャリア支援システムとして有効であると考えられる。

今後、このアンケート結果を踏まえ、学習教材開発を進めていくと共に、キャリア支援プログラムの構築について、検討を継続していきたいと考える。

なお、このアンケートの結果は、現在、学会にて発表を行うためにデータのさらなる解析を行っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

足達 淑子(TOSHIKO Adachi)
東京医科歯科大学・歯学部附属病院・歯科衛生保健部長

研究者番号：90420265

(2)研究分担者

木下 淳博 (KINOSITA Atsuhiro)
東京医科歯科大学・図書館情報メディア機
構・教授
研究者番号：102422207

(3)連携研究者

近藤 圭子 (KEIKO Kondo)
東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究
科・講師
研究者番号：20282759

(4)研究代表者

三浦 佳子 (YOSHIKO Miura)
東京医科歯科大学・歯学部附属病院・副歯
科衛生保健部長
研究者番号：20396972

(5)連携研究者

品田 佳世子 (KAYOKO Shinada)
東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究
科・教授
研究者番号：60281542

(2)研究分担者

須永 昌代 (SUNAGA Masayo)
東京医科歯科大学・図書館情報メディア機
構・助教
研究者番号：90581611